

報告事項（1）

上相川地区の分布調査について

1 令和3年度の分布調査の概要

上相川地区は16世紀末～17世紀初頭にかけて、金銀の採掘が始まる相川金銀山の成立に伴って形成された鉱山集落遺跡である。遺跡は、標高150～200mの段丘上及び緩斜面地に立地しており、東西約800m、南北約300m、面積は約20haに及ぶ。慶長5(1600)年に「金山町当起(登記)」と記述があることからこの頃に成立したと考えられ、その後、相川金銀山の発展と共に最盛期を迎えましたが、水害や金銀産出量の減少などにより、賑わいの中心は次第に現在の市街地の方へと移っていき、明治末期にほぼ無人となった。(平成25年3月史跡追加指定)

調査地点は国史跡佐渡金銀山遺跡内の初期集落域である上相川地区の内容確認に伴うものであり、調査が未了の約21,000㎡の範囲の詳細分布調査を行う。

2 調査期間

令和3年7月12日～12月22日(途中、中止期間を含む)

3 調査体制

佐渡市教育委員会が調査主体となり、新潟県教育庁文化行政課から指導を受け、実施した。

4 調査成果の概要(速報)

- ①対象地 約21,000㎡のうち、今年度調査分 約15,400㎡について篠竹及び下草刈、枯死木の伐採等を行った。残る約5,600㎡については令和4年度に実施予定。
- ②調査地点は、床屋町・鍛冶町・田町ほか。
- ③床屋町から田町に向かう東西方向の道に沿って、短冊形の区画が整然と並んでいることを確認した。また、平坦面に沿う南北方向の道も確認できた。区画の規模は均一ではなく、バラツキがみられる。道と敷地の境界に簡易な石積みが見られる箇所がある。
- ④採取遺物は近世陶磁器が多く、17世紀初頭以降の製品が見られるが、17世紀代のものが多く、18世紀前半まで定量採取できる。唐津焼(絵唐津大皿・小皿・播鉢)、伊万里焼(碗・皿)、備前焼(盤・播鉢)、志野焼(皿)など。破片が多く、完形品は少ない。
- ⑤床屋町の専念寺下の沢に面した平坦面から、複数の墓石及び石造物を確認した。石造物は、配置を写真及び位置図に記録すると共に、墓碑を記録した。詳細配置図は令和4年度に作成予定。
- ⑥石造物は、18世紀中ごろ以降の年号を有しており、周囲の散布遺物も江戸後期が多い。
- ⑦選鉱に関する扣石や石磨が点在している。石積みに転用されている例もある。
- ⑧3～5cm程のズリが分布している範囲あり。羽口など製錬・鍛冶に関する遺物は僅か。

5 調査成果の公開

令和3年11月13日(土)の現地公開は荒天のため延期(令和4年3月公開予定)。